

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果に関する知事コメント

本県における今年度の全国学力・学習状況調査の結果は、依然として、全ての教科で全国の平均正答率を下回るという厳しいものでした。私たちは、三重の子どもたちや保護者の皆様からの負託に十分応えているとは言い難い状況にあることを、引き続き厳しく受け止め、学力向上の取組をより加速させていく必要があります。

しかしその一方で、今回は特に昨年度からの集中的な取組などもあり、昨年度大きな課題が見られた「小学校国語」や「小学校算数」を含め、10教科中9教科で全国の平均正答率との差が前回より縮まり、小中学校ともに改善の兆しが見られました。特に、小学校国語Bや中学校数学Aは、ほぼ全国の平均正答率の水準となったことをはじめ、小学校では4教科（国語B、算数A、算数B、理科）で、全国の平均正答率との差が調査開始以来最も縮まるなど、前回からの変動において全国トップクラスの伸びも示しました。

また、校長のリーダーシップによる組織的・継続的な取組に注力してきたことにより、校長による授業の見回りや、教員による授業での「めあての提示」、「振り返る活動」の徹底が進むとともに、子どもたちが粘り強く問題に取り組んだ結果、無解答率の減少も全国でトップクラスとなるなど、大いに励みとなる明るい芽も育ってきています。

これらのことは、子どもたち一人ひとりにとっても、また、日頃子どもたちと接している教職員や、「みえの学力向上県民運動」の趣旨に基づき、それぞれの立場で子どもたちを支えていただいている保護者、県民の皆様にとっても、「やればできる」ということを実感することにつながるのではないかと考えます。

次代を担う子どもたちの育成が三重県の最重要課題の一つです。

私たち教育に携わる全ての者は、「毎日が未来への分岐点」との認識のもとに、子どもたちの能力を最大限引き出すよう取り組んでまいりますので、引き続き、学校・家庭・地域が一体となって県民総参加で三重の子どもたちの学力を育てていただきますよう、ご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成27年8月25日 三重県知事 鈴木 英敬